



WEEKLY REPORT

No. 1465

<本年度クラブ会長方針>

家族に感謝、職場に感謝

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル
会長 松本 哲朗 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号丸越ビル6F
幹事 杉本 忠夫 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org

インスピレーションになろう

<2018-19年度R.I.テーマ>
R.I.会長 パリー・ラシン

第1709回例会

母子の健康月間

平成31年4月25日(木)

地区研修・協議会報告

於 名古屋東急ホテル

会員 56名

出席計算数

48名中36名出席

出席率 75・00%

前々回出席率 90・00%

例会プログラム

★大上次年度青少年奉仕委員長

・次年度年度青少年交換委員会

プログラムについて

★鬼頭社会奉仕委員長

・ロータリー地域社会共同隊(RCC) 結成記念例会のご案内

・鬼頭才オスシンガーズ団長

・東日本大震災チャリティコンサート2019報告

・サート2019報告

★地区研修・協議会報告

ロータリーソング

「我らの生業」

指揮者 春日井和良

ピアノ伴奏 富板 玲子

ピクチャー

札幌北RCC 吉井 千博さん

名古屋中RCC 吉田 敬岳さん

ニコボックス

平成最後の例会です。松本 哲朗 地区研修・協議会の報告をします。よろしくお願ひします。

杉本 忠夫

札幌からようこそ。小笠原和俊 春日井さんお世話になっております。ありがとうございます。 荻葉 賢一 中村さんお世話になります。

尾上 昇

小笠原さんお元気何よりです。

岩崎 征一

小笠原先輩の顔色がすくく良くな

られたので!! 岡田 尚彦

本日委員会報告します。

堀江 英弥

平成最後の例会です。

横井 衛

平成元年に入会し、30年間お世話

になっていきます。 小澤 幸男

東日本大震災チャリティコンサート

2019ご来場ありがとうございました。

誕生月です。

鬼頭 茂成

平成最後の誕生日でした。昭和は

遠くなりけりです。 照井 栞

春になってきました。令和まであ

と少し。 川合 美幸

地区研修・協議会報

告します。よろしく

お願いいたします。

春日井和良

会長挨拶

「イースター」

名古屋大須ロータリークラブ、

今日が平成最後の例会となりました。

外国発祥の行事が増えていま

すが21日の日曜日がイースターで

したのでその話をします。



日本語で「復活祭」といいます。

キリストが、処刑された3日後に

復活したことを祝つお祭りで、キ

リスト教ではキリスト誕生のクリ

スマスよりも重要と言われていま

す。語源は、方角を表すイースト

(East)と同じで、春の女神エオ

スト(EOSTRE)から来ていま

す。春は寒い冬から復活する季

節、また太陽が昇る東(East)も

暗い夜から復活する方角と考え

復活を祝つ祭りとして「イースタ

ー(Easter)」が行われるように

なりました。カラフルにペイント

された卵が復活の象徴とされ、多

産で繁栄を表すウサギもシンボル

になっていきます。

今年4月21日でしたが、毎年

日程が変わります。春分の日以降

に迎えた満月の後の日曜日になり

ますが、年によって3月終わりか

ら4月下旬まで

幅があります。

ちなみに来年は

4月12日の日

曜日です。ティ



地区研修・協議会報告

次年度クラブ奉仕委員長

杉本 忠夫

ズーランドやUSJなど、テーマパークではこのところイベントに取り上げられており、徐々にイースターも広まろうとしています。

みなさん、こんにちは。次年度クラブ奉仕委員長を仰せつかりました杉本です。さる4月14日の日曜日にホテルナゴヤキャッスルで地区研修・協議会がございました。私はクラブ奉仕委員長として次年度の近藤明美副会長、SAA・照井さん、会場運営・神谷委員長と同じ第2分科会ということで話を聞いてまいりましたので報告させていただきます。

ポールハリスは「クラブ運営の根幹である「親睦」と「奉仕」は表裏一体であり、またそれは車の両輪である。そしてそれをクラブ内外の活動においてクラブが自治権を持って運営していくために中心となるべき委員会がクラブ奉仕委員会である。」と話されたこの



とです。

また岡部力バナー・ミーナーの『クラブ奉仕委員会はクラブ運営において中心的な役割を担っており、職業分類上平等であるべき委員のみならず、明るく楽しい例会に参加してもらえよう力を注ぐことが大事である。』と話がありました。

当名古屋大須ロータリークラブにおいてのクラブ奉仕委員会の仕事は、①例会受付、②ニコボックスの管理、③例会プログラム、④例会での卓話者の依頼、などな多岐にわたります。

7月から、地区研修・協議会で学んだことを参考に、クラブ奉仕委員会として明るく楽しい例会運営を心掛けていきたいと考えておりますので、是非皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

地区研修・協議会報告

次年度社会奉仕委員長

渡辺 観永

4月14日、社会奉仕委員長として出席して参りました。国際奉仕



委員会と同じ分科会で開催され、

当クラブとしては、木村光徳さんが地区国際奉仕委員長であり、神谷さんのご主人 あまのCの児玉憲之さんが地区国際奉仕委員、また丹下さんが事例発表をされたりと盛りだくさんで、思わずこちらの方に目を奪われてしまいました。地区社会奉仕委員会として、塩谷和久委員長をはじめ委員方が強く訴えられたのは次の3点でした。

1. 愛知県の防災・地域の防災に

コミットメントを

2. 地区内各クラブの社会奉仕

業の収集と発信

1. については、東南海・南海・東海地震を想定している愛知県としてはもちろんであると思います。しかしながら、ロコモティブとしてまだ明確なものがないように、防災・減災レジジへの参加の奨励、そして「あいち・なごや強靱化共創センター」への協力(賛助会員としての参加)を要請するものにとまっています。

無論、名古屋大学を中心とした産学協同の活動がすすんでいるのは大きく理解しているだけに、地区ロータリーとしての防災に対する視点はいいもの、もうすこし踏み込んでよかったのではないかと残念に思う部分があります。しかし各クラブ、また会員各位の社員などを講座に参加させて、地域の防災リーダーの育成を促すべき

つかけとしては十分でした。

当クラブにおいても、観光客や買い物客が多く集まる大須地域の防災を想定して、準備を進めていく必要があるかもしれません。次年度の宿題だと思えます。

2. については、印象としては環境保全やRCCの活動が強く感じられました。環境保全については、当クラブの猿投の森での活動をはじめ各クラブの環境保全も紹介されたもの名古屋市内25RCC合同で行った東山植物園の「桜の回廊プロジェクト」がクロスアップされるなど、地域のニーズに対してのクラブの活動が弱まった感が少なくありませんでした。

RCCについては概略を押さえたレベルにとまりました。本年度より、春日井さんのご尽力によって、当クラブでもRCCが結成されます。息の長い活動をされた団体とRCCが関わることを嬉しく思います。

さて次年度において、社会奉仕委員会としては、例年通りの老人介護施設音楽慰問のほか、台湾桃園西門RCCとの青少年短期交換留学を地区補助金事業として実施する予定です。これはグローバル補助金を活用した水資源支援において心強いパートナーとして動いてくれたRCCからの打診、柴田会長エレクトの決断、堀江次年度国際奉仕委員長のお膳立て、において計画してい

ます。

会員の皆様には改めて文書でお知らせいたしますが、概略といたしましては本年8月17日から27日に実施するものです。最初の1週間は台湾での交流。次の1週間で日本での交流が始まります。双方の名のロータリアンの子弟が参加して相互でのホームステイとなります。それぞれの子ども達を両国で育もうとする企画です。

日本では名古屋市の講場の見学、下呂高山への日帰りバス旅行など企画が盛りだくさんです。勿論出発前の台湾語(華語)講座を含むオリエンテーションも実施いたします。クラブ内の高校生(中学生・大学生も限定付でOK)のロータリアンの子どもが対象となります。学業の都合などで長期の交換留学を諦めていた方には朗報となります。送り出す方にはそのままホストファミリーとなっていたいただきませ

す。ただ、定員がありますのでお早めにお申し込み下さい。彼らの交流そのものを台湾、そして日本での社会奉仕となりうる刺激を社会に与えていきたいと考えています。次年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

地区研修・協議会報告

次年度職業奉仕委員長

春日井和良

次年度、職業奉仕委員長を仰せつかりました春日井です。5年前



に次いで2回目の職業奉仕委員長となります。よろしくお願い申し上げます。

分科会では『ロータリーの職業奉仕』についてとびっきりで次期地区職業奉仕委員長の挨拶に始まり、次に委員長と二人の副委員長、三人による分科会テーマに対してのパネルディスカッションのあと、各分区分毎にグループディスカッションが行われました。

勤柄次期職業奉仕委員長からはロータリーの職業奉仕についてパワーポイントの資料を使って説明がありました。

『職業奉仕はロータリーの原点、活動の根幹、金看板と言われ最も重要である』と言われるが、実際のところ分りにくい。他の四大奉仕は奉仕の前に「・・・」に対してと入る感じが分かりやすいが、職業奉仕の場合は自分の職業「に対して」ではなく、「自分の職業」を営む上で「奉仕する」と考えないと違いが分かる。奉仕の心をもって職業を営みなさいと。仕事の中に「世のため、人のため」という奉仕の心が必要である。このように

がロータリーの目的である「意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育成していく」ということにもなる。だからこそ職業上の高い倫理基準、高潔性が求められる所以であり、そして職業倫理を表す標語として皆さんよく存じの四つのマストがある。』

そのような委員長の話のあとのパネルディスカッションでは副委員長二人を交えて、職業奉仕の活動としての事例を挙げてのやり取りがありました。

分区分のグループディスカッションでは各クラブの活動報告・予定などが話し合われ、職業奉仕としてどんな活動をすればよいのか、職場例会なども、訪問できる適当な会員企業が中々ない、社会見学も適切な訪問先を探すのに悩んでいるクラブが多く、他にも、職業奉仕についての卓話例会や優良従業員表彰など、職業奉仕としての活動が如何に地味で悩ましいか、盛り上がり欠ける分科会に感じました。

地区研修・協議会報告

次年度国際奉仕委員長

堀江 英弥

第四分科会は社会奉仕委員会と国際奉仕委員会の合同で開催されました。全体の流れとしては、地区国際奉仕委員長で当クラブ会員の木村光徳さんから挨拶と奉仕活

動の情報についてお話しがあり、また奉仕活動の実例紹介として、17・18年度当クラブ国際奉仕委員長の丹下高博さんが発表され、引続き地区ポリオプラス／職業研修チーム委員長福田哲三さんから話がありました。

それぞれ内容を説明すると、先ず、次期地区国際奉仕委員会の木村委員長から地区内各クラブでどの様な国際奉仕活動を行っているか、行えるのかの情報として、

1. この国でどんな支援ができるか。
2. 活動するには各地の協力者や団体が必要なのでお問合せいただければ情報提供をします。

各クラブで積極的に活動を行うて欲しい。

とお話がありました。

次に昨年グローバル補助金事業を実施した参考事例として、当クラブの前国際奉仕委員長の丹下さんから、台湾桃園西門ロータリークラブと実施したグローバル補助金事業「桃園市上田陵部落浄水システム計画」について、スライド



を使った分かりやすい発表がありました。

最後に次期地区ポリオプラス／職業研修チーム委員長の福田哲三さんから、財団補助金システムについての説明と、世界からポリオプラスされている7つの案件の紹介があり、いずれの案件も当該地区のガバナーや地区ロータリー財団委員長を通じて提案されているので安心して実施してもらいたい。地区もサポートを約束します。是非検討してください、とお話がありました。以上ご報告いたします。

地区研修・協議会報告

次年度青少年奉仕委員長

大上 晃延

次年度のテーマは「広がる青少年奉仕」です。地区の青少年奉仕活動ついて、簡単に説明させていただきます。

インターアクトクラブは、12歳から18歳を対象とした奉仕プログラムのことです。現在、地区内に18のインターアクトクラブがあり、他人のためになる奉仕活動の奨励と実践、指導力への自己形成などを行っております。

ロータリーアクトクラブは、18歳から30歳を対象とした青少年奉仕団体のことです。リーダーシップや職業スキルを磨き、ロータリー会員など地元のリダーと交わり、楽しみながらボランティア活

動をしております。

RYLAは、ロータリー青少年指導者育成プログラムの略で、16歳から30歳を対象として、現在の置かれている立場や状況に気づき、自負がなすべきことを考え、自らリーダーとして行動ができるようになるために研修を行っております。

青少年交換プログラムは、16歳から18歳の高校生を、1年間海外のロータリークラブと交換することにより、その国の言語を習得することにも、風俗・習慣・文化を直接体験し、その中で相互に国際理解と親善を推進することを目的としております。



今年度のテーマは「学友クロスプロモーションの実現に向けて」でした。この学友クロスプロモーションとは、青少年奉仕活動に関する地区での委員会である、インターアクト委員会、ロータリーアクト委員会、RYLA委員会として青少年交換委員会が独自に活動するのではなく、各活動の横のつながりをつくり、連携を推進しよう

とするものです。次年度においても引き続き連携を強化し、ロータリー財団委員会、米山記念奨学委員会の学友も含め交流の場を広げていくことで、よりロータリーを理解してもらい、最終的にロータリーへ入会してもらうことを目指しております。

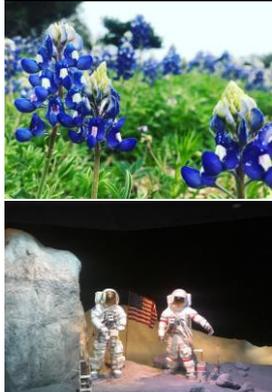


その他・お知らせ

派遣青少年交換学生 報告
「マンズリーレポート 3月」
青少年交換学生 中野 愛

●学校

学校は3月の初めに春休みがありました。春休みは日本より多少短かったですが、とても楽しかったです。オースティンに行ったり、ヒューストンに行ったり、外出していることが多かったです。暖かくなってきたので観光地は割と混雑し始めました。サンアントニオから少し離れるとブルーボネットがとてもきれいに咲いている場所がたくさんあるので写真を撮りに行ったりしました。他にももうす



プログラムがあるので、ドレスを買
いに行ったりもしました。

●ホストファミリー

ホストの息子が日本に任んでい
るのですが、彼が短期留学で日本
の中学生を二人連れてきました。
なので、久しぶりに日本語で会話
をしました。私の高校やシヨッピ
ングモールを案内したのですが、
楽しんでくれたようだったので嬉
しかったです。

■国際ロータリー・ニュース

「水と衛生への新たなアプローチ」

2019年3月19日

人びとが安全な水を持続的に利用
できるようにするために、ロータ
リーが新たな方法で挑む(続き)

水と衛生に関する教育指導

衛生施設の設定だけでは、WA
SHプロジェクトの長期的な成功
は望めません。健康的な習慣を定
着させることも重要です。適切な
衛生習慣によって、コレラ、赤痢
肺炎などの病気を50パーセント近
く減らすことができます。石鹸を
使った手洗いだけで命を救うこと
ができるのです。

オーストラリア、ピクトリア州
のボックスヒルセントラル・ロー
タリークラブは、インドやエチオ
ピアを巡り発展途上国の学校にト
イレを設置し、水と衛生に関する
教育を行うプログラム「Operat

ion Toilets (トイレ活動)」を
実施しています。プログラムでは、
プライバシーを守るために、男子
用と女子用の別々のトイレを作る
とともに、石鹸を使った手洗いの
方法を生徒に教えています。また、
各学校の管理人に施設の管理方法
を指導しています。

このプログラムは、水と衛生に
関するニーズへの認識向上と、地
域社会への教育を推進する支援団
体「We Can't Wait」と協力し
て行われています。2015年に
プロジェクトが開始されて以来、
およそ90校の学校と60,000
人以上の生徒が直接的な恩恵を受
けました。

水と衛生に関する教育のもつ一
つの成功例は、マレーシアのプチ
ヨン・セントラル・ロータリー
クラブがフィリピンのインターア
クトクラブとロータリーアクトクラ
ブと協力して、フィリピンのラン
パラの複数の学校で行った教育指
導です。この活動では、数名のイ
ンスタクターを迎え、口腔衛生、
手洗い、頻繁に体を洗うことの重
要性について生徒を指導しました。
生徒には、歯ブラシ、シャンプー、
石鹸、くしその他の洗面用品が配
られました。

10年間以上を継続可能な

WASHプログラム

今年度、ロータリーとUSAID
Dのパートナーシップが開始され
てから10年を迎えます。このパー



トナーシップで
は、地域社会と
リソースが結集
され、発展途上
国での安全な水
の提供、衛生施
設の整備、衛生
教育への取り組
みが行われてきました。世界で最
大の政府の援助機関であるUSA
IDとロータリーがもたらす力は
明らかです。ロータリーは、資金
調達のために世界的なネットワー
クを動かし、ボランティアを集め、
施設の建設を監督します。一方U
SAIDは、活動の計画と実施に
技術的支援を提供し、システムを
運営・管理する地元団体の能力向
上を担当します。

「ロータリーは、このプログラム
に活力をもたらし、活動に弾みを
つけている」と話すのは、USA
IDで水と衛生ならびに環境衛生
に関するアドバイザーを務め、ロ
タリー/USAID運営委員会の
メンバーでもあるライアン・マ
ホーニーさんです。「ロータリーは
これまで、地域社会のリーダーと
の関係をつまぐ活かし、プロジェ
クトを軌道に乗せてきました」

このパートナーシップの結成当
時から活動拠点となっているガー
ナでは、6つの地域にある35のロ
タリークラブが、2020年ま
でに200件以上の持続可能なW
ASHプログラムを実施する予定
です。

ロータリー財団専門家グルー
プのメンバー、フレドリック・ム
ディさんとアラスデア・マクリオ
ドさんは昨年9月、プログラムの
成果と継続的な課題について評価
を行うために、30のプログラム実
施地を訪問しました。

モフィース・アンドン・ティス
トリクト・ロータリークラブ(ス
コットランド、テサイド州)の
会員マクワドさんは、その視察
中に見た教育活動に感銘を受けま
した。訪れた学校のほとんどで
水と衛生の専門教育者を育てる
など、水と衛生に関する指導が教
育の一環となっていました。また、
水と衛生の教育者と生徒たちが、
手洗いの大切さを訴えるポスター
を作り、配布している例もありま
した。「長期的なプロジェクトは
若い世代とともに始めなければな
りません」とマクワドさん。生
徒たちがいずれば教える立場とな
り、各家庭と地域社会で変化をも
たらすことができる、とマクワド
ドさんは加えます。

プロジェクト実施地への距離や
時に課題となります。実施地が遠
ざると、クラブが定期的に現地
視察するのが難しくなるからで
す。このような課題には、地元住
民との関係を築き、地域社会と地
区レベルのリーダーとのつながり
を強める必要があると、ムディ
さんは話します。

ロータリー/USAID運営委
員会のメンバーであるデンハム
さんは、ガーナでのこの提携活動の
成果は、協力団体との連絡に「M
-natsApp」を使ったリ、常勤
のスタッフを雇うなど、活動の手
配とコミュニケーションが効果的
に行われたおかげであると言いま
す。水と衛生の分野で官民が協力
するこの画期的なパートナーシッ
プは、現在、第二段階に入り、ガ
ーナ、マダガスカル、ウガンダで
のプロジェクトに充てる400万
ドルが確保されています。その上、
これらの国のロータリークラブが
200,000ドルを集めることにな
っています。

「ロータリーは、社会的・経済的
な開発に寄与している」とデンハ
ムさん。WASHプログラムでの
活動がその証拠となるでしょう」

*一部抜粋しました。

執 筆: Ryan Hyland
寄稿提供: Awura Adwoa Kye
/Rotary International
(国際ロータリーIITA)

5月9日(木)例会の案内

SPEAK OUT DAY

公共イメージ向上委員会

前田 隆久・杉浦 令淑
川畑 博敏・竹林 正人

*本文は、原則、頂いた
原稿を転載しています。